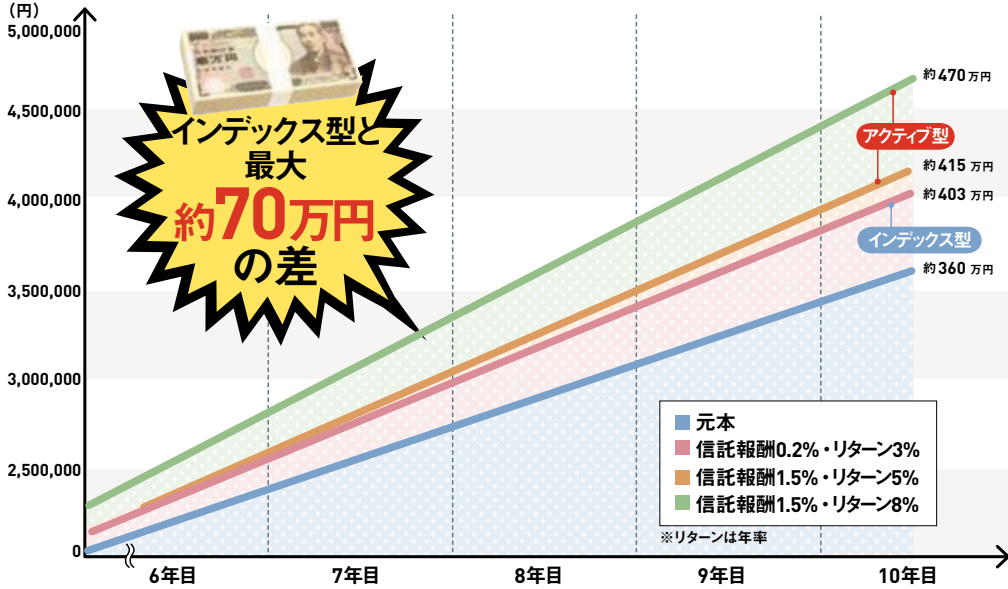


アクティブ型
投資
攻略01

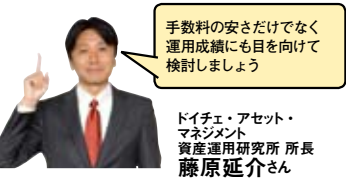
でも…アクティブ型ってコストがお高いんでしょう…？
モトが取れる成績はコストを凌駕

■月3万円ずつ10年間運用したとき



コストの高さに見合った
運用成果を出す商品も多い

アクティブ型投信は信託報酬の高さが指摘されることが多い。ただ、インデックス型投信と比べた信託報酬の高さを差し引いても、それを上回る成果をあげるアクティブ型投信もなかにはある。たとえば信託報酬が1.5%でも、インデックス型を2%を超えるようなパフォーマンスとなれば、コストの高さにメリットを期待できる。もちろん安定的な成績を必ず毎年残すとは限らないが、積立投資で時間を分散するなど、リスク軽減をはかりながら運用したい。



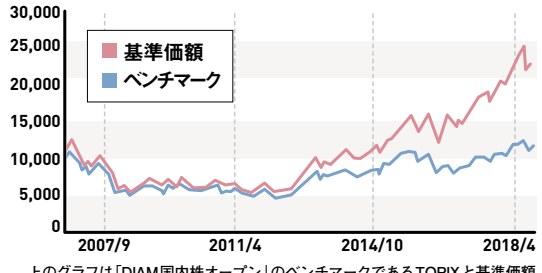
手数料の安さだけでなく
運用成績にも目を向けて
検討しましょう
ドイチエ・アセット・
マネジメント
資産運用研究所 所長
藤原延介さん



アセットマネジメントOne
『DIAM国内株
オープン』の場合

信託報酬(税込) 1.73%
リターン
(10年・コスト差引後) 8.92%

東証1部の全銘柄の指数であるTOPIXを上回る
成果を目指すアクティブ型投信の人気商品



上のグラフは「DIAM国内株オープン」のベンチマークであるTOPIXと基準価額の推移の比較。2007～2012年頃までの相場が低調なときはほぼ変わらないが、その後相場上昇につれて両者の差は大きく開いているのがわかる

■手数料の相場

アクティブ型 0.8～2.5%前後 高
インデックス型 0.1～0.5%前後 低

投資対象の資産にもよるが、アクティブ型とインデックス型の信託報酬はおおよそ上の通り。ただ、年率リターンや過去の運用成績(基準価額)の推移も含めて比較検討したい

アクティブ型投信は信託報酬の高さからインデックス型投信と比べて不利と言われることもある。ただ、コストの高さだけでなく、市場平均を上回る運用成績を目指すという運用手法の違い、そして実際にどれくらいのリターンをあげているかも含めて、総合的に判断しよう。

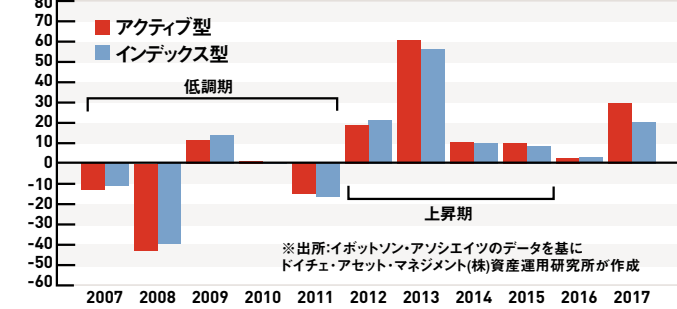
たとえば信託報酬を差し引いてインデックス型投信より3・7%年率リターンが高かった場合、10年間の運用成績でみると約70万円もの差が出る。もちろん実際の運用成績では、単年でみると勝つときもあれば負けるときもある可能性はあるためこの数字は目安だが、パフォーマンスの差はコストと同様に時間を積み重ねるほど開きやすい。

また長期間の運用で積立投資をすることを前提にすると、アクティブ型投信の良さを活かすつつ、時間分散によつてよりリスクを抑えた運用も期待できる。中長期投資の選択肢としてもぜひ検討したい。

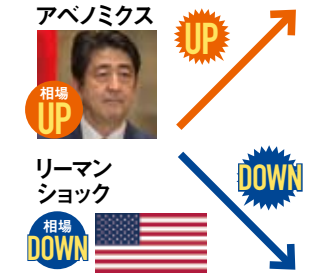
中長期の積立投資の
選択肢としても魅力

良いときはより強く、悪いときは損失も膨らむ傾向あり

国内株式ファンドの年間収益率(運用コスト控除後)の推移



インデックス型



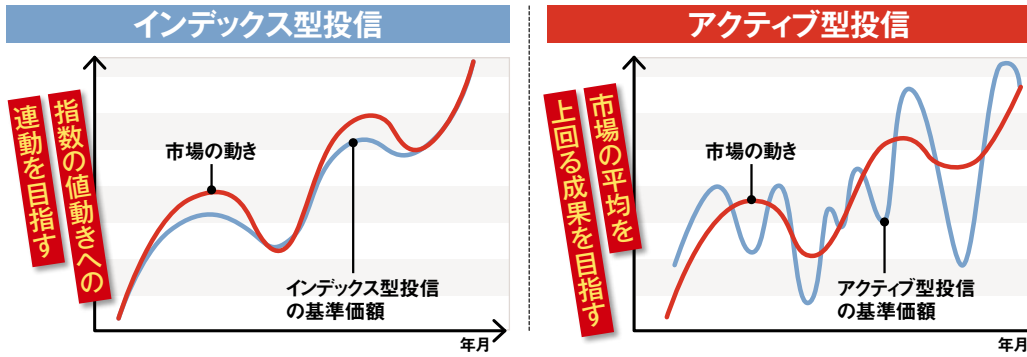
写真/123RF

アクティブ型

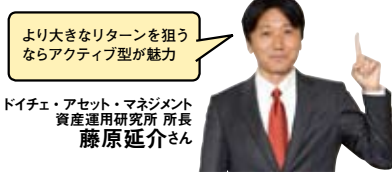


相場の傾向を
より強く反映する
アクティブ型投信は相場下落時に現金の保有比率を高めてダメージを軽減するタイプの商品もなかにはある。ただ特徴としては、上のグラフの通り、相場上昇・下落ともに値動きの傾向を強めるような成績となっている。

もう一度
おさらい インデックス型とアクティブ型の違い



指数と同じ値動きをすることを目指す	運用方針	独自のテーマや調査に基づき、市場平均を上回る運用成果を目指す
低い	保有コスト(信託報酬)	高い
アクティブ型よりは少ない	銘柄数	多い
相場低迷時は指数と同様に値動きが軟調に	相場が悪いとき	相場低迷時でもリスクを抑えられる銘柄もある
堅実な値動きに	相場が良いとき	大きなリターンを得る傾向がある



より大きなリターンを狙う
ならアクティブ型が魅力
ドイチエ・アセット・マネジメント
資産運用研究所 所長
藤原延介さん

指数に連動したインデックス型に対して
アクティブ型はさらに大きなリターンを狙える

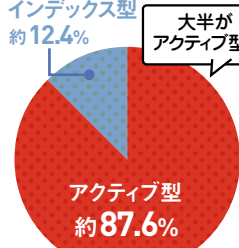
インデックス型投信が指数に連動した成果を目指すのに対して、アクティブ型投信は市場平均以上のリターンを狙うのが大きな違い。運用会社が投資対象銘柄の分析を個別に行うためインデックス型より信託報酬が高い傾向があるが、より大きなリターンを狙うならアクティブ型は魅力のある選択肢となる。

実はリターンランキング上位はアクティブ型が中心

順位	ファンド名	会社名	リターン (3年・年率)	純資産額
1	日興 グローイング・ベンチャーファンド 『愛称：グローイング・ベンチャー』	日興アセット マネジメント	33.84%	約 365 億円
2	小型株ファンド『愛称： グローイング・アップ』	明治安田アセット マネジメント	33.08%	約 278 億円
3	DIAM 新興市場日本株ファンド	アセット マネジメント One	32.39%	約 155 億円
4	SBI 小型成長株ファンドジェイクル 『愛称：jcool』	SBI アセット マネジメント	32.30%	約 268 億円
5	新成長株ファンド 『愛称：グローイング・カバース』	明治安田	30.48%	約 800 億円
6	中小型成長株ファンド- ネクストジャパン-『愛称：jnext』	SBI アセット	30.13%	約 97 億円
7	MIHAM 新興成長株オープン 『愛称：J-フロンティア』	アセマネ One	29.59%	約 504 億円
8	マネックス・日本成長株ファンド 『愛称：ザ・ファンド@ マネックス』	アセマネ One	28.28%	約 43 億円
9	女性活躍応援ファンド『愛称：椿』	大和	27.35%	約 349 億円
10	ダイワ 新興企業株ファンド	大和	26.10%	約 91 億円

※モーニングスター「ファンドランキング 国内株式型 > 3年間」より。5月29日編集部調べ

■総本数のうち
アクティブ型の割合



※楽天証券「投信スーパーサーチ」より

とくに成長率の高い
国内中小型株が上位に

モーニングスターのリターンランキングによると、上位はすべてアクティブ型投信が占める。とくに近年は成長率が大きかった国内の中小型株や新興国株に投資する商品が目立つ。



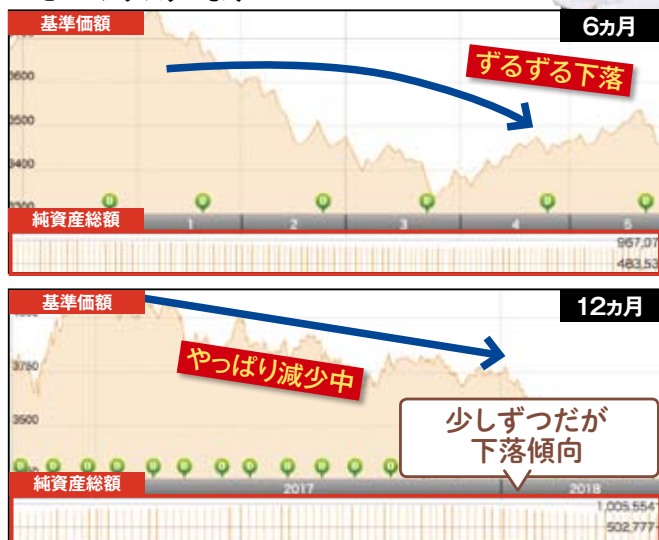
ドイチエ・アセット・マネジメント
資産運用研究所 所長
藤原延介さん
資産運用や投資信託業界の動向に精通。近者に「外資系運用会社が
明かす投資信託の舞台裏」(ダイヤモンド社)

もっとたくさん
利益を狙いたい！
インデックス型に
物足りなくなったら…

リスクを取って投資効率を高める
アクティブ型投信の
ススメ

攻略04 投資家からの評価もチェック 1年以上の基準価額下落 純資産の減少は要注意

・モーニングスターより



上記は基準価額が下落傾向にある商品の場合。できるだけ長期間の推移をみておくのがポイントだ。また純資産総額もあわせてチェックし、とくに10億円以下を割り込んでいる商品は注意したい

純資産総額の見分け方

- 増減** 1年以上下がっている場合は注意
- 規模** 10億円以下は避ける
- 両方×だと要注意**

基準価額 時価
純資産総額 時価+人気

相場に原因があるのではなく商品に理由があるか判断を

相場次第で基準価額や純資産総額は数ヵ月下落することは珍しくない。ただし1年以上続いている場合は原因を調べよう。

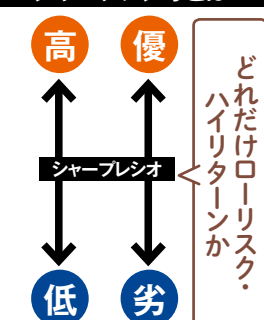
攻略03 リスクに対するリターンを評価する シャープレシオでも 同カテゴリ内の成績をチェック

・モーニングスター銘柄ページより

パフォーマンス	1年	3年(年率)	5年(年率)	10年(年率)
トータルリターン	24.07%	3.24%	6.36%	1.42%
シャープレシオ	2.47	0.21	0.44	0.07
カテゴリ	2.05	0.44	0.80	0.29
+/- カテゴリ	+0.42	-0.23	-0.36	-0.22
順位	65位	158位	125位	103位
%ランク	31%	96%	100%	100%
ファンド数	210本	165本	125本	104本

- リスクに見合ったリターンを得ているかを示すシャープレシオを表記
- カテゴリ内の平均シャープレシオ。これより上回るのが理想だ
- カテゴリ内の本数と順位、上位から数えた位置などが確認できる

シャープレシオとは



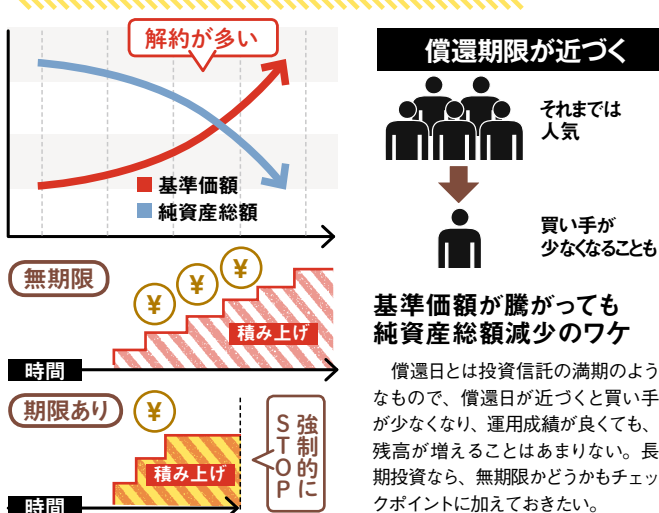
同じ資産クラス内での比較が重要

ドイツ・アセット・マネジメント 資産運用研究所 所長 藤原延介さん

シャープレシオで 同じカテゴリ内比較の精度UP

リターンをリスクで割った数値であるシャープレシオは運用効率を測るひとつの指標として有効。ただ、これも右ページで紹介した通り、同じカテゴリ内で比較しないと商品選びの精度は落ちる。モーニングスター等ではカテゴリ内でのシャープレシオの順位や平均値との比較ができるのでぜひ活用しよう。

攻略05 償還って銘柄選びと関係あるの？ 長期投資なら 償還期限は「無期限」を優先



シャープレシオも 同カテゴリ内で比較

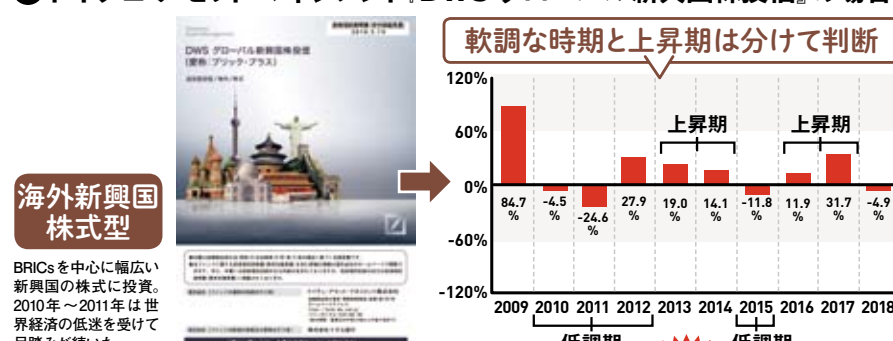
アクティブ型投資の商品比較でぜひ押さえておきたい指標のひとつがシャープレシオだ。これは「リスク1単位当たりの超過リターンを測る」もので、端的にいうとリスクに対してどれだけリターンを得られているかを示す指標として知られる。投資信託の運用成績を比較するポピュラーな指標なので、モーニングスターなどを活用して同カテゴリ内でのポジションを確認しておこう。

そのほかみておきたいのが基準価額や純資産総額の推移。両者とも数ヵ月程度相場によって下降や減少が続くことはあるが、1年以上その傾向が続いているなら運用悪化やそれ以外の問題が起きている可能性もある。他の商品やベンチマークと比較してその原因をチェックしておきたい。また償還期限が近づくとい手が少ないこと、たとえば基準価額が騰がっていても純資産総額の減少が顕著になることもある。償還期限の有無や期限がいつかもあわせてチェックを。

攻略02 パフォーマンスは長期間の成績だけが重要ではない 相場下落時こそ地力に差がつく

重要 目論見書の「年間収益率」で 2010年～2011年をチェック

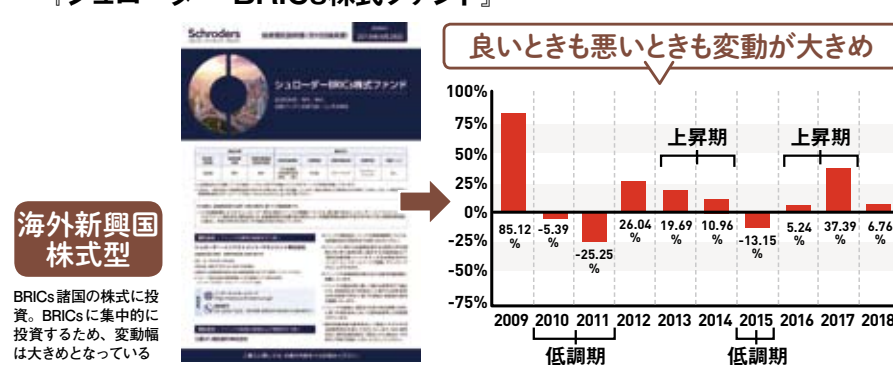
例 ドイツ・アセット・マネジメント『DWS グローバル新興国株投信』の場合



海外新興国株式型

BRICsを中心に幅広い新興国の株式に投資。2010年～2011年は世界経済の低迷を受けて足踏みが続いた

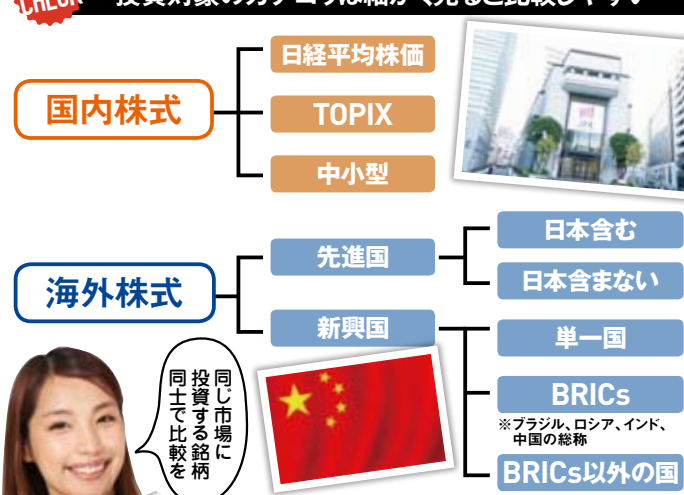
例 シュローダー・インベストメント・マネジメント『シュローダー BRICs株式ファンド』



海外新興国株式型

BRICs 諸国の株式に投資。BRICsに集中的に投資するため、変動幅は大きめとなっている

投資対象のカテゴリは細かく見ると比較しやすい



アクティブ型投資は同じカテゴリ内の商品同士で比較する

運用成績は同じ株式でも国内か海外か、また先進国か新興国かでパフォーマンスの傾向は大きく異なる。アクティブ型投資同士で比較する場合は、なるべくカテゴリを揃えて、同様の投資対象である商品と比較対象としておきたい。

インデックス型投資との違いを把握したら、次はアクティブ型投資のなかでどのように選べばよいのか押さえておこう。多くの人にとって気になるのが運用成績だが、そこで気をつけたいのが投資対象の違いについて。同じ株式でも国内や海外、TOPIX連動か選りすぐりの中小型株を対象としているかなど、性格によってパフォーマンスの傾向も大きく異なる。土俵が異なる

近年ではたとえば2010年～2011年は世界経済の足踏みが続く軟調な展開が続いた。この運用成績も単年で重点的にみておきたい。

同じ土俵の商品同士を比較検討する

そのうえで注意したいのが相場下落時の成績だ。年率リターンは5年や10年の長期間をチェックするのが一般的だが、それだけでなく相場が低調だった時期に、どれだけ損失を抑えることができていたかも確認したい。